

## 経営戦略の一環としてIRに取り組む企業が増加

### 投資家の意見の社内での共有や有効活用進む

#### — 2013年度IR優良企業賞 応募企業の調査結果より —

一般社団法人 日本IR協議会(会長：隅 修三 東京海上ホールディングス株式会社 取締役会長)は、2013年度IR優良企業賞の審査結果を公表しました。本リリースは、第1次審査で活用した応募企業276社のアンケート調査の集計結果を、参考までにご報告するものです。

#### 【調査結果の概要】

##### (1) 経営戦略の理解促す—IRの目標に「経営戦略・経営理念の伝達」を上げる企業が84.2%

応募企業276社のうちIRの目標を設定し明文化している企業は91.7%(253社)。具体的なIRの目標として上位3項目は前年と同じく「企業・事業内容の理解促進」「適正な株価の形成」「経営戦略・経営理念の伝達」だがこのうち「経営戦略・経営理念の伝達」は84.2%(213社)と前年度調査結果よりも1.1ポイント上回った。また、IR専任部門がある企業は80.8%(223社)、社長直轄のIR部門は40.9%(113社)となった。

##### (2) 経営に役立つ意見の「フィードバック」や社内関係部門の協力が進む—定期的な報告する企業は69.6%

アナリスト、ファンドマネジャーの意見をどのくらいの頻度で社内にフィードバックしているかの質問に対し「定期的に機会を設けている」企業が69.6%(192社)と、前年比約5ポイントの上昇となり、幹部や社員へのフィードバックが進んでいる。また、「この1年で投資家の意見を企業活動に活かした」企業は75.7%(209社)となったほか、各事業部門がIR活動に協力している企業も98.9%(273社)に上った。

##### (3) コーポレートガバナンスの強化—招集通知や参考資料に投資家の意見を反映した企業は69.2%

「株主総会の招集通知や参考資料に投資家の意見を反映した」企業は69.2%(191社)、今年度からの新設項目である「全ての議案を丁寧に説明し株主総会に諮る」企業68.5%(189社)と、株主総会に関する活動に投資家の視点を入れる動きが広がった。IR活動と連動したCSR活動については昨年からの質問に加えた「SRIファンドやESGを評価軸にする投資家訪問」を実施しているとする企業が36.8%(85社)となった。

##### (4) 公平な情報開示—ウェブサイトで「プレゼンテーション資料」を開示している企業は99.6%

公平な情報開示について「どの対象に向けても、情報の質・量の格差なく開示している」企業は90.6%(250社)となった。一方、「国内外の投資関係者に同質の情報を同日に開示している」企業は51.8%(143社)に留まった。具体的にウェブサイトを通じて「プレゼンテーション資料」を開示している企業は99.6%(275社)となった。

##### (5) IR活動において力を入れたのは—「個人投資家IRの強化」「IRサイトの充実」「経営トップによるIR」

IR活動において強調したい点や、力を入れた点等を訪ねた自由記述欄のなかで、約3割以上の企業が「個人投資家IRの強化」「IRサイトのリニューアルや充実」「経営トップによるIR」強化を挙げている。

#### 本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本IR協議会

電話:03-5259-2676 FAX:03-5259-2677

担当: 事務局長・首席研究員・佐藤、首席研究員・篠原、同・北薊、事務局 桜井、山崎

\*日本IR協議会とは・・・1993年設立のIR普及を目的とする非営利団体。会員数は(2013年10月末時点)で564、主な活動はIRの研修活動、調査・研究、企業間の交流などを行っている。

URL:<https://www.jira.or.jp/>